

平成 21 年 6 月 8 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18710218

研究課題名（和文） 周縁世界におけるキリスト教の展開
——マレーシア先住民オラン・アスリの事例から研究課題名（英文） The Advance of Christianity in the Peripheral World
: A Case Study of the Orang Asli, Malaysia

研究代表者

信田 敏宏 (NOBUTA TOSHIHIRO)

国立民族学博物館・研究戦略センター・准教授

研究者番号：70336501

研究成果の概要：本研究の成果は、文献研究と現地調査により、マレーシア先住民オラン・アスリのキリスト教化の歴史と現在の実態を十分とは言わないまでも、ある程度把握できたことにある。研究期間中、研究代表者は、オラン・アスリに関する英文著作を刊行したが、キリスト教化の情報を新たに加えたことで、オラン・アスリに関する最新事情を世界に向けて発信することができた。本研究は、いまだ萌芽の段階を脱していないが、キリスト教のグローバルな拡がりとはローカルな社会で起きている出来事が連動していることを確認できたのは大きな成果であった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	240,000	3,140,000

研究分野：社会人類学・東南アジア研究
 科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
 キーワード：東南アジア

1. 研究開始当初の背景

1980年代以降、マレーシアでは先住民オラン・アスリに対して国家主導の開発やイスラーム化の強制が行なわれてきている。イスラームを国家宗教とするマレーシアでは、1970年代後半からの世界的なイスラーム復興の影響を受け、1980年代に入って、マレー人への同化政策の一環として、非ムスリムの民であるオラン・アスリに対してイスラーム化を強力に推進するようになったのである。オラン・アスリに対するイスラーム化政策は、実

質的にはムスリムであるマレー人に対する優遇措置である新経済政策（通称：ブミプトラ政策）と同様の性質を持つものであった。すなわち、イスラーム改宗者に対して開発の恩恵が優遇されるという政策（開発とイスラーム化がセットになった政策）が実施されたのである。そして、この政策下で、オラン・アスリというマイノリティ社会はある種の分裂状況に陥り、イスラーム改宗者とそうでない者の間に緊張が生じ、様々な形で紛争が起きるようになった。

以上のような、イスラーム化政策施行以降における状況の中で、オラン・アスリ社会では、キリスト教宣教活動の著しい制限にもかかわらず、キリスト教へ改宗する人が増加していた。キリスト教改宗はイスラーム改宗を回避する手段の一つと研究者の間で指摘されていたが、「イスラーム化が推進されているマレーシアの周縁世界においてキリスト教化が進行している」というこの逆説的な現象は、イスラーム世界の中にキリスト教が広がっていることを意味しており、「キリスト教のグローバルな拡がり」を考えていく上でも看過できない現象であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以上のような状況を視野に入れながら、オラン・アスリを含むマレーシア先住民に対するキリスト教化の歴史を整理すること、さらには現地調査によってキリスト教宣教活動やキリスト教改宗者の現状を把握して、オラン・アスリのキリスト教化の実態を解明していくことにある。

3. 研究の方法

研究代表者である信田は、マレーシアのヌグリ・スンビラン州に位置するオラン・アスリの集落において、2年半の長期フィールドワークを実施し、その後も、定点継続調査を行ってきた。言語その他によるコミュニケーションに大きな問題はなく、オラン・アスリの人びともラポール（信頼関係）を構築していたので、同地域で引き続き現地調査を実施することに支障はなかった。また、首都クアラ・ランブール周辺部及びスランゴール州のオラン・アスリ集落においても、「都市化」をテーマにした現地調査を実施してきたので、その過程で知り合ったオラン・アスリの NGO ネットワークとの関係が強まった。さらに、ペラ州などのオラン・アスリ集落を訪問し、ヌグリ・スンビラン州ばかりでなく他地域におけるオラン・アスリの実態の把握に努めてきた。

本研究では、長期にわたり現地調査を実施したヌグリ・スンビラン州のオラン・アスリ集落において、継続的な調査を実施し、特に、キリスト教改宗の現状や改宗者の生活状況を把握するように努めた。特に、コミュニティにおけるキリスト教改宗者の処遇についてのデータの収集および分析を行なった。

上述の集落での状況と比較するために、これまでの人的ネットワークを活用して、他地域のオラン・アスリ集落へ調査地域を広げ、オラン・アスリ全体、さらにはマレーシア先住民全体のキリスト教の動向をできるかぎり把握するように努めた。

文献研究については、マレーシアにおけるキリスト教史に関する文献資料を収集し、マ

レーシア全体のキリスト教の動向を把握すると同時に、オラン・アスリのキリスト教化の歴史についての文献資料を現地にて収集し、日本に持ち帰って分析した。

4. 研究成果

(1) 文献研究

マレーシア独立以前については、植民地資料などからキリスト教宣教の動向にアプローチすることができた。しかし、独立以降になると、イスラームがマレーシアの国教となった影響により、欧米の外国人宣教師の滞在制限など、キリスト教の活動自体が大幅に制限を受けた結果、詳しい実態を報告する文献資料が激減していた。そのため、独立以前までのキリスト教の動きは追いかけるが、それ以降になると、情報量が少なくなり、分析も限定的になってしまった。

さらに、キリスト教は、オラン・アスリ社会やマレーシアの枠組みだけでは捉えきれないグローバルな展開が見られる。宗教のグローバル化という脈絡の中で、本研究の課題も考えていかなければならない。

したがって、文献研究については、さらなる文献の収集と分析が必要であると言えよう。そして、今後は、マレーシア及び東南アジアにとどまらず、より広い視野の中で研究を進めていきたいと考えている。

(2) 現地調査

現地調査によって明らかになったことについて、以下、列挙する。

- ① オラン・アスリばかりでなく、ムスリムのマレー人の間でもキリスト教宣教活動が実施されており、改宗者が出てきている。大学などにおいて、キリスト教宣教の集会の勧誘があり、集会の出席者には現金が配られるという情報を得た。また、マレー人のキリスト教改宗者については、マレーシアの裁判所でイスラームの棄教をめぐって裁判が進行している。
- ② オラン・アスリのキリスト教改宗者が確実に増加している。村レベルでのキリスト教改宗者が増えていることは明らかであるが、オラン・アスリ全体でもキリスト教徒の人口が増えていることは様々な聞き取り情報から推察できる。しかし、それを証明する統計資料を手に入れることはできなかった。
- ③ イスラームからキリスト教へ改宗する者や、キリスト教を棄教する者など、極めて流動的な状況にある。このような行動に出るオラン・アスリにとって、キリスト教への改宗やイスラーム教への改宗というのは現金を手に入れたり、病気を治したりするための1つの選択肢にすぎないことは明らかであり、そこに宗教的な覚醒を見い

- だすことは困難である。
- ④ キリスト教改宗の動機は、経済的要因や病気の治療などにある。純粋に宗教的な理由で改宗した人を探す方が困難である。しかし、そもそもキリスト教には、弱者救済という宗教的使命があり、その観点から見れば、マレーシアのキリスト教宣教のターゲットが、周縁者オラン・アスリに向けられていることは理解できる。
 - ⑤ キリスト教改宗者のグループは、イスラーム改宗者と同様に、村のコミュニティの中では独立した存在であり、彼らが執り行う葬儀や結婚などの諸儀礼は、コミュニティの他の成員とは異なる場所や形式で実施されるように村のコミュニティの中で取り決められている。村の中核のコミュニティは、慣習であるアダット(*adat*)に従っているが、アダットの解釈の中にはイスラームやキリスト教は存在しなかった。そこで、そうした価値(宗教)をアダットの外部に置くことによって、逆にアダットの価値を維持しようとする村の中核的コミュニティの対応は、伝統と宗教の観点から見て極めて興味深いものである。
 - ⑥ 調査村には、現地のキリスト教宣教師(華人系)だけでなく、日本や韓国からも宣教師が訪問している。このことを聞き取りによって知ることになったのは、2008年の現地調査においてであった。そのため、この点について、追跡調査が必要であるが、本研究が終了するため、現時点では難しい。この情報は、調査村のキリスト教化が、グローバルに展開されるキリスト教宣教の動きと連動することを示しており、今後も引き続き注視する必要性を感じている。

その他、キリスト教の「教会」が政府により違法建築物として破壊されるなど、キリスト教に対する弾圧が存在していることや、キリスト教が先住民運動に少なからず影響を与えていること(先住民運動のリーダーにはキリスト教徒が多い、集会での歌の多用など)を現地調査の過程で把握することができた。このような実態は、村レベルでフィールドワークを実施するだけでは把握できないが、インターネットなどによって、日本からも容易に得ることができる情報である。マレーシアにおけるキリスト教の動向については、様々な手段を駆使して引き続き注目していく必要がある。

以上、オラン・アスリのキリスト教化の実態について現地調査で明らかになったことを報告してきた。本研究期間の後半には、マレーシアの政治状況が大きく変動し、オラン・アスリをめぐる政治状況も流動的になってきている。マレーシアにおけるキリスト教やイスラームなどの宗教の動向については、

実態調査を含めて、新たな共同研究プロジェクトが必要となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 信田敏宏、「Urbanization and Indigenous People: Development among the Orang Asli, Malaysia」、Toh Goda(ed.)『Urbanization and Formation of Ethnicity in Southeast Asia』、New Day Publishers、pp.100-115、2009年、査読無
- ② 信田敏宏、「開発の風景——マレーシア先住民オラン・アスリの事例」、信田敏宏・真崎克彦(編)『東南アジア・南アジア 開発の人類学』、明石書店、pp.99-117、2009年、査読無
- ③ 信田敏宏、「Islamization Policy toward the Orang Asli in Malaysia」、『国立民族学博物館研究報告』、31 巻 4 号、pp.479-495、2007年、査読有
- ④ 信田敏宏、「『リセット』としての改宗——マレーシア、オラン・アスリ社会におけるイスラーム改宗者」、阿部年晴・綾部真雄・新屋重彦(編)『辺縁のアジア——<ケガレ>が問いかけるもの』、明石書店、pp.58-80、2007年、査読無
- ⑤ 信田敏宏、「『改宗の人類学』序説——マレーシア、オラン・アスリ社会におけるキリスト教化」、杉本良男(編)『キリスト教と文明化の人類学的研究(国立民族学博物館調査報告62)』、pp.151-168、2006年、査読有

[学会発表] (計 11 件)

- ① 信田敏宏、「民族消滅の可能性を考える——マレーシア先住民の未来」、シンポジウム「現代社会と人類学者——アジア太平洋のフィールドから」、2009年2月15日、神戸大学
- ② 信田敏宏、「分断されるコミュニティ、創造するコミュニティ——マレーシア、オラン・アスリのコミュニティの再編」、国立民族学博物館共同研究会「東アジア・東南アジア地域におけるコミュニティの政治人類学」、2008年5月17日、国立民族学博物館
- ③ 信田敏宏、「統治される森と先住民の森」、日本マレーシア研究会関西例会/総合地球環境学研究所(「持続的森林利用オプションの評価と将来像」プロジェクトおよび「人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生」プロジェクト)、2008年3月21日、総合地球環境学研究所

- ④ 信田敏宏、「世帯から社会を見る——フィールドワーク技術論(序論)」、第35回「東南アジアの社会と文化」研究会/京都人類学研究会1月例会、2008年1月18日、京都大学
- ⑤ 信田敏宏、「『日本』が想起される時——マレーシア・シンガポールの事例から」、人間文化研究機構連携研究「文化の往還」2007年度第3回例会、2007年12月1日、国際日本文化研究センター
- ⑥ 信田敏宏、「マレーシア先住民社会における『華人性』——オラン・アスリの事例から」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「中国系移民の土着化/クレオール化/華人化の人類学的研究」、2007年11月3日、東京外国語大学本郷サテライト
- ⑦ 信田敏宏、「移住から定住へ——オラン・アスリ社会における母系制の出現」、国立民族学博物館共同研究会「家の人類学——新たな親族研究に向けて」、2007年10月20日、国立民族学博物館
- ⑧ 信田敏宏、「森の先住民民族 オラン・アスリ(マレーシア)」、みんなく開館30周年記念講座『異文化を学ぶ』、2007年8月31日、毎日文化センター
- ⑨ 信田敏宏、「『開発の風景』——マレーシア先住民の事例」、国立民族学博物館共同研究会「開発と先住民」ミニ・シンポ「南アジア・東南アジアの開発」、2007年7月8日、国立民族学博物館
- ⑩ 信田敏宏、「『新オラン・アスリ』の出現——マレーシア先住民社会における『生業』の諸相」、国立民族学博物館共同研究会「生業と生産の社会的布置」、2007年6月10日、国立民族学博物館
- ⑪ 信田敏宏、「オラン・アスリの10年——歴史資料としての民族誌」、東南アジア学会第77回研究大会、2007年6月9日、九州大学

〔図書〕(計 3件)

- ① 信田敏宏、『Living on the Periphery: Development and Islamization among the Orang Asli in Malaysia』、Center for Orang Asli Concerns、400頁、2009年
- ② 信田敏宏・真崎克彦(編)、『東南アジア・南アジア 開発の人類学』、明石書店、280頁、2009年
- ③ 信田敏宏、『Living on the Periphery: Development and Islamization among the Orang Asli』、Kyoto University Press & Trans Pacific Press、323頁、2008年

〔その他〕

ホームページ等
国立民族学博物館ホームページ
<http://www.minpaku.ac.jp/staff/nobuta/01.html#result>

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18710218.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

信田 敏宏 (NOBUTA TOSHIHIRO)
国立民族学博物館・研究戦略センター・准教授
研究者番号：70336501

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し